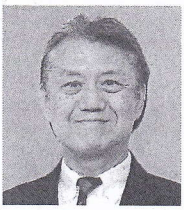
COLUMN 県内大学発 経世済民 666

学生時代の経験は多種多様

埼玉学園大 反田 和成
経済経営学部 教授



学生から就職活動、あるいは将来のキャリア形成に関する質問が数多くある。一人一人の個別指導が中心となるが共通して伝えている項目があるので紹介したい。

■経験学習

学生時代の経験は、大学のゼミ、クラブやサークル活動、アルバイト、留学経験、ボランティアや地域活動など、個人ごとに違いがある。これらの経験を通して重要なことは、「どんな経験をしたか」よりも、「経験から学んだことをどう活かすか」を考えて自分の行動パターンに組み込む習慣が付いているかである。

例えば、サッカーのクラブ活動→仲間を信頼して任せる経験、ボランティア活動→多様な価値観の人たちとのコミュニケーション、アルバイトのリーダー→スタッフを褒めてモチベーションを上げる、などである。これができる人は就職後の成長ポテンシャルが高いと言える。

企業の人材育成の多くは「経験学習」＝経験から得られる「学び」を真の行動パターンに反映させ、良い結果が得られる確率を重視する傾向がますます強くなっている。特に、失敗から得られる経験は将来の布石となるケースが多いが、学生時代に習慣づいてないと、社会人になって急にできるようにはならない。

■実行力と教養を高める

自分で考え行動するといった実行力を身に付けたい。何事にもなぜそうなるのかと疑問を持ち、問題点を抽出し解決するための課題をいくつか設定し、課題を克服するために迅速に行動するといった実行力は社会人になっても活用できる。

さらに、自分の好きなこと、やってみたいことに取り組むことも大事である。社会に出ると日本人だけではなく、海外の人たちとのコミュニケーションを取る機会が増える。日本の歴史、文化、政治、経済について話題になることが多いので、最新の経済事象を含めて習得してほしい。特に日本人が不得手としている宗教の基本的な知識は、ビジネス相手を理解するためにも、相手の背景を知るという意味で必須である。

■キャリア形成

人生100歳時代を迎え、卒業後50～60年働くことが前提となるため、将来を見据えたキャリア形成が重要だ。興味がある業種（IT、通信、商社など）を絞り、自分が入りたい企業の分析を行うのが良い。また自分がやりたい仕事（営業、経理、財務、人事など）を通して、どのようなキャリアを積むかを決めることは価値がある。5～7年程度キャリアを積んだ後、企業に残るか、キャリアを生かして転職するか、独立するか、リスキリングにより新しい分野の仕事を探すといった選択をしてみたらどうだろうか。

最後に、学生生活は就職活動を有利にするための何かを始めるというのではなく、自由に過ごせる時間を有効に活用してさまざまなことにチャレンジし、試行錯誤を重ねることができる時期だと認識してほしい。他人との違いに気づきいろいろな自分がいることを知るきっかけになれば、充実した学生時代を過ごしたという達成感と就職後仕事を通して生きがいを実感できると思っている。

そった・かずなり　1956年生まれ。慶應義塾大学経済学部経済学科卒。青山学院大学大学院会計プロフェッション研究科修了（会計修士）。総合商社丸紅を経て、2016年1月、香川大学大学院地域マネジメント研究科教授に着任。その後、21年4月より現職。経営行動研究学会理事（21年9月～24年8月）。専門は総合商社論、企業論、中小企業論、ベンチャービジネス論、国際経営論。